

人間市納税貯蓄組合長賞

「税でつくられる輪」

東金子中学校 三年 滝澤 愛菜

「国民の義務として、納税がある。」

なんとなく、私の頭には、それだけが入っている。まだ、自分にはあまり関係のないことだと思ってしまう。しかし、私の生活は、税金が無かったら困ってしまうことがたくさんあると知った。

あたり前のように教科書をもらい、あたり前のように病院に無料でみてもらう。そんな生活に欠かせないことは、私の知らないところで、税金によって成り立っていた。毎日整備された校舎で学べていることも、税金が支えてくれていた。

正直、税金に良いイメージはなかった。買い物をする、サービスを受ける、自動車を持つ、家を持つ、温泉に入るなど、いたるところに税はついてくるし、納税された税が、どのように使われているのかを知らなかったからだ。しかし、いざ税について調べてみると税は国民主権のもとでの税で、税に関する法律や使いみちは、国会でしっかりと話し合って決められていた。税として国民に求める負担について、よく考えられていて、安心した。

その一方、税金を負担する働き手が減っていき、一人ひとりの負担が重くなっていくと予想されていることを知った。そして、その対策として、負担が働く人に集中しないように、誰でも納めることができる消費税を引き上げているということを知った。そのことを

知る前は、消費税を引き上げるのはなぜなのか分からなかった。しかし、その理由を知った今、とても良い対策だと思う。

私が今、毎日楽しく過ごせているのには、縁の下の力持ちである、税金の支えがあるからだと分かった。そして私は、税金は助け合いの輪だと思う。納税者に助けられていた人も、大人になり、納税者になり、人を支える立場になる。歴史の授業で教わった。形は違えど、日本には、弥生時代ごろから税があるらしい。そんな大昔から、税を通して助け合いの輪は続いている。その輪を、私はこれからもずっと続けていきたい。「義務だから」という理由で税金を納めたくはない。「なぜ税を納めるのか」をよく考えたい。今まで支えてくれた方々に、税という形で恩返しができるよう、将来、自分の中に意味を持って納税をしていてほしい。